



「強く 聡く 美しく」

横中は
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA



第10号 —知性・感性・品性のある横中生を目指して—

令和2年1月30日 発行

宇都宮市立横川中学校長 矢口 真一

1月8日、冬休みを終え、生徒が学校に戻ってきました。今年度も残り約3か月となり、1・2年生は学年としてのまとめと進級への準備をしっかりと行うこと、3年生は義務教育9年間の集大成として一層学習等に励んで様々な力を高め、次のステージへ羽ばたいていくことを期待しています。本校教職員は、今後も「すべては生徒のために」全力で日々の教育活動に当たり、生徒を支援していきます。

スキー宿泊体験学習・立志式

1月23日(木)～24日(金)の2日間、2年生が裏磐梯スキー場で実施しました。今回は、「銀世界 光り輝く 14(じゅうし)の決意」(6組女子生徒作)というスローガンの下、実行委員長を中心に事前準備をしっかりと行って、当日を迎えました。スキー活動は、2日間で3回行いました。どの活動も、教員の安全管理の下、生徒は元気に活動しました。特に2日目は、生徒たちもスキーに慣れ、グレンデを颯爽と滑るたくさんの姿が見られました。1日目の夜に実施した立志式では、代表生徒が立志の決意を発表し、その後、保護者の皆様にお書きいただいた手紙を生徒一人一人に手渡しました。手紙を読みながら保護者の思いに涙する生徒も多く、感動的な式になりました。立志式という人生の一つの節目を迎え、大人となる自覚を高めてくれたと思います。お忙しい中、ご協力いただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。2日間の活動を通して、学び、考え、今後への決意を新たにしてくれた2年生の、これからの学校生活での活躍を大いに期待しています。



小学校6年生の中学校訪問

1月17日(金)、横川地域学校園内各小学校をはじめ5つの小学校から6年生が来校し、中学校生活の一端に触れました。授業参観では、一生懸命に学習に励む本校生徒の姿を見ました。交流会では、1年生が学級ごと・班ごとに、中学校の生活や学習、学校行事について小学生に説明しました。当日、堂々と説明する1年生の姿に、4月からの成長を感じました。部活動見学では、本校生徒は先輩として練習に励む姿を見せました。一方、参加した児童の態度も立派であり、私は4月以降の中学校生活に大いに期待をもちました。



The most certain way to succeed is to try just one more time.

— 成功するのに最も確実な方法は、常にもう一回だけ試してみるものだ —

昨年12月、保護者や地域の皆様には「学校評価」にご協力いただき、ありがとうございました。市教育委員会から結果が届きましたので、主な結果等についてお知らせします。

数値目標を達成した主な項目と評価対象者

* 数値目標はいずれの項目も 80%、() 内は市平均

「生徒は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」生徒 94.0% (85.9%)

「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」生徒 94.7% (94.7%)

「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」生徒 94.0% (93.1%)

「生徒は、きまりとマナーを守って、生活をしている」生徒 92.3% (88.1%)

「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」保護者・地域住民 89.1% (91.5%)

数値目標を達成しなかった項目と評価対象者

() 内は市平均

「生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」生徒 69.7% (66.9%)

評価結果については、分析を行うとともに課題の共有化を図り、次年度の教育活動に生かしていきます。なお、学校評価の詳細は、3月13日（金）に本校ホームページに掲載予定です。ぜひご覧ください。

たったひとつのたからもの - 秋雪くんのこと -

昨年、家庭の大掃除で本棚の整理をした際、十数年前に購入した1冊の本を見つけました。「たったひとつのたからもの」というタイトルの本で、ご両親にとって「たからもの」だった息子の秋雪（あきゆき）くんについて書かれたものです。本が出版される2年程前、秋雪くんは、某生命保険会社のCMでも取り上げられました。小田和正の曲「言葉にできない」がBGMで流れ、何枚もの秋雪くんの写真が映し出されたCMは、多くの反響と感動を呼びました。当時、学級担任だった私は、その生命保険会社に連絡し、CMのVHSテープをいただき、道徳の授業で活用しました。

加藤秋雪くんが生まれたのは、1992年10月。生まれた季節が「秋」だったこと、お父さんが「雪」が大好きだったことから「秋雪」と名付けられました。しかし、生後1週間目、ご両親は医師から「ダウン症の疑いがあるので、一度検査を受けたほうがいい」と言われます。その後の検査の結果、ダウン症であること、さらに合併症として重い心臓障害を抱えていることが判明します。医師からは「生後半年のあいだに絶対に風邪をひかせてはいけない、ひいたらそれで終わりです。生きられたとしても1才の誕生日を迎えるのは難しいでしょう」と宣告されました。ご両親は、頭の中が真っ白になるほど衝撃を受けました。たったの1年。まだ生まれて1か月だというのに、なぜ、命の長さを宣告されなければならないのか。なぜ、そんな運命を背負って生まれてきたのか。あまりのショックで、何も感じるができなかったと言います。「秋雪を守ろう」、そう決意しても、残酷な現実は何度も心が壊れそうになりました。そんなご両親を支えてくれたのは、他でもない秋雪くんの存在そのものでした。温もりのある身体で笑う、べそをかく、そして楽しそうに手足を動かす。そんな秋雪くんの姿が、ご両親の元気の源になりました。秋雪くんとともに過ごす時間は、まさに宝物でした。また、死を覚悟してからは、「生きていられるだけでごほうび」という気持ちになったそうです。そして、秋雪くんと過ごせる1日、1分、1秒を愛おしく感じ、一瞬も逃さずに大切にしたいと思いました。朝、目覚めたとき、秋雪くんの穏やかな寝息に、上下する胸の動きにほっとする。今日も秋雪に会えた。ごはんを食べる、トイレに行く、怒る、泣く、笑う、眠る。砂の数、星の数ほどの幸せのかけらを、秋雪くんがいつも握っていました。秋雪くんは、6年2か月の間を一生懸命に生き、ご家族に抱えきれないくらいたくさんの方の幸せを残しました。ご両親のその後の人生を、十分支えてくれるほどの大きな幸せを。

秋雪くんが天国へ旅立った後、ご両親は「もう少しで1年生になれたのにね」という言葉を数多く耳にしたそうです。あと3か月で小学校に入学することができた。普通に考えれば、3か月というのはあと少しなのでしょう。しかし、毎日、死と背中合わせで、限界を探りながら生きてきた秋雪くんにとっては、明日は来てみなければ分からない。3か月先というのは、まさに遠い未来であったそうです。最高にかわいい笑顔も、ちょっと頼りないぶよぶよした手足も、母ゆずりの石頭も、心をぽっと温かくしてくれる秋雪くんのぬくもりは、もうどこにもない。生前、「ぼくは生きているよ」と全身で表現していた秋雪くん。いつも全力疾走していた秋雪くんの命が、周りの人たちに精一杯生きることの大切さを教えてくれました。

- ・昨年12月から1月にかけて、PTA生活指導部のご協力を得て、「冬季下校指導」を実施しました。特に危険と思われる場所等で生徒の下校を見守りました。お陰様で、生徒は安全に下校することができました。お忙しい中、また寒い中ご協力いただいた生活指導部長様をはじめ、生活指導部員の皆様に感謝申し上げます。
- ・宇都宮市では、信頼される学校づくりの一環として、年2回、教職員による体罰等について、保護者の皆様から校長への電話等による相談日を2日程度設けることとしています。本校では、第2回目を2月13日（木）・14日（金）の2日間、9：00～16：00としますのでお知らせします。